

近代水道史の原点・本河内ダム

長崎水害緊急ダム事業によって整備された本河内高部ダム・低部ダムは、中島川の存した水道専用ダムであり、どちらも明治年間に建造された長崎市の近代化に寄与した歴史的に重要なダムです。
本河内水源地水道施設においては平成29年7月31日付けで重要文化財に新規指定されました。

本河内高部ダム～日本初のダム式水道～

本河内高部ダムは、長崎市創設水道施設として建設された、日本初のダム式水道であり、明治24年（1891年）に完成したダムです。当時の長崎市の年間予算の7.5倍の建設費をかけて建設されたもので、近代水道史上及び、近代土木史上において重要な価値を持つダムです。

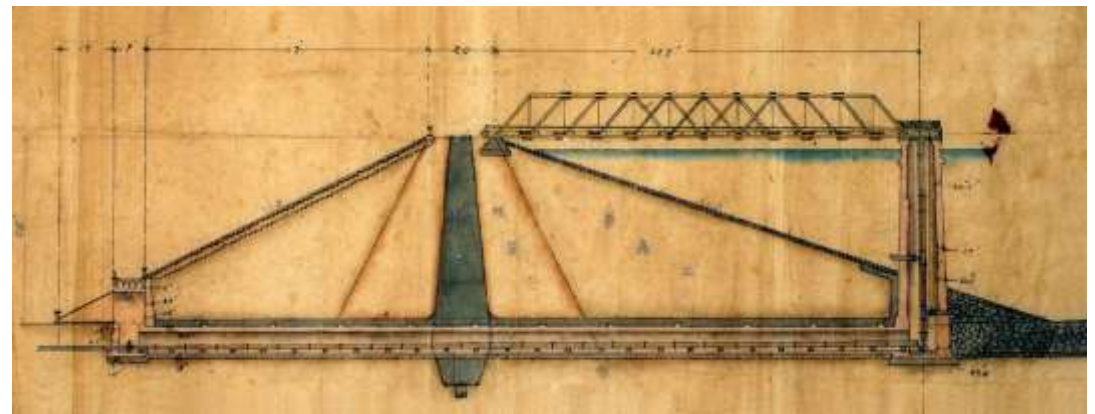


(写真) 堤体下流面

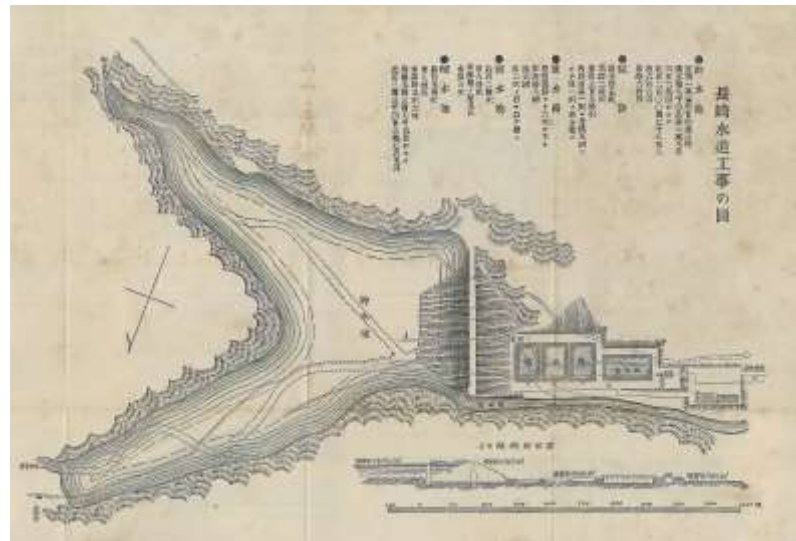
明治期に建造されたデザインも秀逸です。



(左写真)
土の締め固め
作業用の石



(ダム断面図) 本河内高部ダムは、土を締め固めて造られたアースダムです。



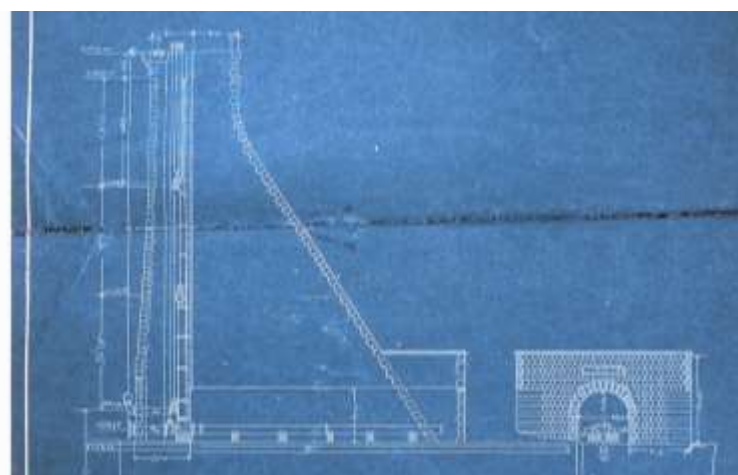
(本河内高部
水道施設全景
図面)

本河内低部ダム～日本で2番目のコンクリートダム～

本河内低部ダムは、日本で2番目のコンクリート造水道ダムとして、明治36年（1903年）に完成したダムです。コンクリートは、ダム近くの山から採った岩石を砕いた粗石をコンクリートで固めた「粗石造コンクリート」になっています。国産セメントが生産され始めた我が国の黎明期のコンクリート構造物です。



(写真) 堤体下流面



(ダム断面図)



(写真) ダム放水路橋。日本初の鉄筋コンクリート橋です。